

# 高島藤樹会

発行 高島藤樹会

〒520-1224  
滋賀県高島市安曇川町上小川69  
近江聖人中江藤樹記念館内  
電話・FAX 0740(32)0330  
URL <http://www.touju.jp>  
E-mail [touju@city.takashima.shiga.jp](mailto:touju@city.takashima.shiga.jp)



子ども藤樹会（於藤樹書院）

## ひじりの声

私の勤務校の職員室には、「五事を正す」を説く紙が貼っています。すなわち、「貌」：顔かたち・愛敬の心をこめてやさしく和やかな顔つきで人と接しましよう、「言」：言葉つかい・相手に気持ちよく受け入れられるような話し方をしましよう、「視」：まなざし・愛敬の心をこめて温かく人を見、物を見るようにしましよう、「聴」：よく聞く・話す人の気に立つて相手の話を聞くようにしましよう、「思」：思いやり・愛敬の心をもつて相手を理解し思いやりの心をかけましょう、という教えです。▼十六歳から十八歳の半分子供で半分大人の高校生に対峙するとき、最も気にかけるのがこの教えです。悩みを抱える生徒に穏やかな表情で向き合っているか。生徒を叱るときに粗暴な言葉を投げていないか。努力している生徒を温かく見守っているか。怒りや悩みを訴える生徒に共感の姿勢をもつて耳を傾けているか。生徒一人ひとりに寄り添い、それぞれの気持ちを理解しようとしているか。▼「心の教育」の重要性が叫ばれる今、子供に関わる大人こそが再認識しなければならない教えだと思います。

(飯田典子)

## CONTENTS

|               |   |
|---------------|---|
| コラム           |   |
| 「ひじりの声」       | 1 |
| 心をつたえたい       | 2 |
| 藤樹生誕400年事業を   | 2 |
| 事業報告          | 2 |
| 第1回「藤樹賞」は矢田監督 | 2 |
| 会員のひろば        | 3 |
| 松下亀太郎先生を偲んで   | 3 |
| 環の郷を訪ねて②      | 4 |

# 心をつたえたい

副会長 弘部 健次

小川村には今も尚「藤樹の教え」が息づいている気がします。琵琶湖畔の小さなこの村に生まれた人間与右衛門さんは、今こそ私たちに何を語ろうとしているのでしょうか。

近年、不登校やいじめ、フリーターから二ートへ、切れたり授業崩壊、果ては自殺や家族まで殺してしまいます。こども達の多くが生き方に戸惑いながら成人していきます。

先頃、映画「中江藤樹」シナリオを読んだ市内中学生から読後の率直な感想が寄せられました。「感動した。」

「するい自分を反省せなあかんと思つた。」とか、眞面目に「心の鏡を磨こう。」「嘘をついている自分を反省した。」「五事を正す生き方をしたい。」など、その素直な感想を読んで、彼らが藤樹先生の教えをシナリオからの確に学んでいることに感激しました。

藤樹の教えを地域にどのように生かせるかは、高島藤樹会の唯一無二の目標です。地域や市民、年令を問わず、全ての人が先生の教えや生き様から多くを学ぶことは大切です。とりわけ青少年、とくに若年のこども達には「与右衛門の生き方と心」を知つて欲しいとがんがえています。かく言う私、実は難しい教えはまだまだ理解できていません。でも最近ようやく彼がどのよう生きてきたかが少し見えてきた気がします。

人間藤樹、その心を四百年経つた今を願っています。

こそ、多くの人々に伝えないと願つて

## 藤樹生誕400年事業を皆さんの力で盛り上げたい

北川 暢子

二〇〇五年秋から取り組んできた準備委員会の事業は、新年度から実行委員会へバトンを渡します。

これまでの取り組みは、中江藤樹の学徳や教えをさまざまな事業として展開する骨子を考え、一方では高島地域から県外各地への広め方を考えて、一歩ずつ進めて参りました。

幼児・児童・生徒向き学習資料として二巻の紙芝居発刊、映画「中江藤樹」のシナリオ発刊と感想文募集をしました。またこれまで高島市民に募集を呼びかけていた八月の「心のセミナー」は、全国に情報発信し、南は沖縄から北は福島まで百名の参加を得ることができました。またこれまで高島市民に募集を呼びかけた八月の「心のセミナー」は、全国に情報発信し、南は沖縄から北は福島まで百名の参加を得ることができます。中江藤樹の映画は三月に大阪公会堂で上映しました。事業の度に使うロゴマーク募集では温かみのある優れた作品が多く集まりました。三月には「五事を正す」の啓発掲示物が各戸配布されましたし、行事ごとに使うのぼり旗も完成しました。

新年度からは、これまで以上に市民のどなたもが、参加していただけるような事業が展開される予定です。先生の遺徳を学び、人と人との繋がりを大切にした活動で400年記念事業が盛り上がるよう、皆さまの積極的な参加をお願いします。

# 事業報告

★平成十八年六月三日（土）、アイリッシュパークにおいて「平成十八年度総会」を開催。三田村治夫教育次長の祝辞のあと、全部で九項目の議案を審議し、すべて原案どおり承認。

総会終了後、松本義懿先生没後三十一年記念講演会が行われ、講師に村田昇先生（滋賀大学名誉教授）をむかえて、「今日求められる教師力とは？」藤樹精神に生きられた松本義懿先生を偲んでの講演が行われた。

★八月二十六日（土）、二十七日（日）の両日、「中江藤樹・心のセミナー」が安曇川ふれあいセンターにて開催。

第一講：伝習録の魅力（吉田公平・東洋大学教授）、第二講：孝經のことろ（伊與田覚・論語普及会学監）、第三講：論語と多久のまち（横尾俊彦・多久市長）、第四講：鑑草のことろ（中江彰・記念館長）、第五講：都鄙問答のところ（寺田一清・不尽叢書刊行会代表）、第六講：現地研修。

北は福島県、南は沖縄県まで、百名を越える参加者を得た。

○ニッケイ工業株式会社様（安曇川）  
○奥谷隆信様（安曇川）

本年度の賛助会員は次のとおりです。

○二ツケイ工業株式会社様（安曇川）

○奥谷隆信様（安曇川）

## 第1回「藤樹賞」を受賞した矢田監督



第1回「藤樹賞」受賞者に、原田龍二主演映画「近江聖人中江藤樹」を監督された矢田清巳さん（57）=京都市在住=に決まり、平成18年1月28日、安曇川ふれあいセンターで贈呈式が行われました。式典のあと、出席者約200名を前に「楽しい映画づくり」と題して記念講演をしました。

★新規事業として、藤樹先生に親しむ巡回講座を五会場で開催する。講師は、本会理事の萬木甚一良氏。

一月：今津、十二月：新旭、一月：朽木、二月：高島、三月：マキノ。  
☆教材委員会は、前年度に引き続き「紙芝居」シリーズの制作事業を精力的に推進する。

☆本日は、第二回「藤樹賞」贈呈式。今回の受賞者は、株式会社致知出版社（東京都港区）に決定する。受賞記念講演は、「出逢いの人間学」と題して同社社長藤尾秀昭氏が行われる予定。

☆現在、高島市が進めている中江藤樹生誕400年記念の諸事業に、本会からも積極的に参加する。

# 会員のひろば

『中江藤樹』の出版

久保田暁一

平成十八年八月、致知出版社（東京都港区）のご助力を得て念願の『中江藤樹』を出版した。私としては、高島が生んだ偉大な先哲として藤樹を顕彰し、藤樹の教えと思想を現代に生かしていきたいと願つての嘗為であった。

出版されるや、幸いにかなりの反響があり、各地の読者から賛同のメッセージを多くいた。中には、颁布に協力して十冊、二十冊と申し込んでくださった方もある。

私は、この書を二部構成にし、第一部を「藤樹の思想と生涯」、第二部を「先賢の藤樹観」として、藤樹の生涯の生き方と代表的著書の思想内容等を、私自身の視点と体験を踏まえて主体的に書き、藤樹の教えを身近なものにすべく意を注いだ。藤樹の教えと思想と生き方には、今日、学び生かすべき点が誠に多い。多くの人に読んで欲しいと願つている。

紙芝居作りで感じたこと

足立 清勝

お誘いを受け入会させて頂いた時は高島藤樹会設立時で、「藤樹さん」は知つていたつもりでしたが、でも

何も判つていなかつたと感じました。それからは機会ある毎に、お話を聞き少しづつではあるが、理解できるようになつてきた、今日この頃です。

今、日本は自己中心の、心の荒んだ暗い時代になつてきていています。

我々一人ひとり自らが、藤樹先生の「五事（貌・言・視・聴・思）を正す」を実践すれば、必ずや人々の心に浸透し、世の中は明るくなると確信しています。昨年来、子供向け紙芝居作りの活動をとおして、私も藤樹先生の教えを拝める、お手伝いができると誇りに感じています。

もつと多くの方々に賛同して頂き、共に頑張りたいものです。

心掛け

小多 偕裕

連日、新聞やテレビで考えられなりような残忍で異常な事件や、企業の責任者によるお詫びの報道などされています。皆さんはどの様にお思いでしようか。幸い、近日中に藤樹先生のお教訓「五事を正す」が市内全戸配布されるとお聞きしました。貌・言・視・聴・思について今一度、心してはどうでしょうか。

先日、中学二年生の子ども達と非行に関するテーマ『万引き』について話し合う機会がありました。

みんなは、『万引き』をしたら誰が悲しみ、誰が困り、自分はどうな

るかも充分に知っています。でも「知つていながらやつてしまふ、やらせてしまう、止められなかつた。」と反省しているのです。原因はどこにあるのでしょうか。家庭に？ お店に？ 今の社会に？ にあるのでしょ

うか。今一度、親と子、隣り近所が和やかな顔で接し、お互いが思いやりのある言葉で話しかけ、澄んだ目で物事を見つめ、人の話に耳を傾けて聴き、真心を込めて相手のことと思う先生の教えを思い起こし、心掛けてみてはいかがでしょう。

## 松下亀太郎先生を偲んで

上田藤市郎

去る平成十八年十月十日、本会顧問の松下亀太郎先生が逝去されました。先生は、生涯を教育一筋に奉げられ、多くの子弟と後輩教職員を育てられました。青柳小学校長のときには、副読本『藤樹先生』を完成させられ、子どもたちが藤樹先生の教えに親しみをもつて学べるようになりました。長年日本藤樹学会、近江・関西藤樹会の理事事を務められ、その研修会には一度も欠席されませんでした。退職後、畢生の大作『物語中江藤樹』、さらに晩年には『中江藤樹と大溝藩』を著され、一途に藤樹精神の究明と普及を貫かれました。ここにご冥福を心よりお祈りいたしま

## 岡山県内の陽明学ゆかりの地



▶ 関谷学校（備前市）



▶ 備中松山城（高梁市）

### 寄稿のお願い！

高島藤樹会では、藤樹先生に寄せる熱い思い、ほのかな思いなど、年令を問わず会員はもとより、広く市民の皆さんからの寄稿をお待ちしております。

原稿字数＝400字以内  
送付先＝近江聖人中江藤樹記念館

## 環の郷を訪ねて

2

又左衛門井

新旭町の川原市には、河原市宿跡をしのぶ多くの屋号や家名が残っています。大正期までは、五十四戸程の集落で、三十戸が農家、專業または副業として二十余の業種を生業としていました。その昔の河原市を次ぎのように唄っています。「酒屋金持ち 北出は田持ち 中の源七つあんは京暮らし」北出とは北町の又左衛門の家で、いづれも河原市の旧家でした。在所は宿駅であり、馬を飼う者が五、六戸ありました。飼主の義務として、日割りで馬を引き駅に出向き、公用に服するとあります。又左衛門も馬方として勤めていました。今も古老から「又左衛門が河原市か、河原市が又り伝えを耳にします。こんにち”又左衛門井”の名を残し



西部の田を灌漑し集落内から安養寺境を走り、県道北端を走る水路として用いられています。

(石田  
弘子)

|       |       |      |      |      |      |       |       |       |
|-------|-------|------|------|------|------|-------|-------|-------|
| 事務局   | 監同    | 理同   | 常任理事 | 副會長  | 同    | 同     | 同     | 同     |
|       |       |      |      |      |      |       |       |       |
| 中江    | 山本    | 古谷   | 清水   | 田中   | 井上   | 多胡    | 萬木甚一良 | 北川暢子  |
| 彰     | 義雄    | 芳實   | 鉄次   | 清行   | 直彦   | 賢     | (安曇川) | (安曇島) |
| (記念館) | (安曇川) | (高木) | (高島) | (高島) | (高島) | (安曇川) | (安曇島) | (安曇島) |

役員紹介

會員募集

3名。 本会は中江藤樹先生に親しむとともに、その遺徳の顯彰をはかり、もつてわが国のひとづくりに寄与することを目的としています。この趣旨に賛同していただける方は、ぜひご入会をお願い申し上げます。現在の会員数は16

■編集後記■

藤樹先生の門人教育は、現代的に  
いうと少人数による「座談会」であ  
ったように思います。市内五カ所で  
開催した『巡回講座』は、まさしく  
学習者が講師の驚咳にせつするかの  
ごとく行われました。この地道な縁  
り返しが、徳風となって市民に広が  
つていくものと信じます。

今号の発行が年度末と遅くなり、  
大変申訳ありません。次号からは、  
もう少し早く発行できるよう頑張  
ります。ご声援をよろしくお願いし  
ます。

〔藤樹賞〕の贈呈  
藤樹教材の開発  
藤樹フオーラム、セミナーなどの開催  
藤樹ゆかりの遺跡見学会の開催  
会員の藤樹関連の出版活動支援  
學習会の開催  
会報の発行

会費については次のとおり

○一般会員 年会費1千円  
○賛助会員 年会費1万円

(表紙題字) 竹脇曇卿氏 (日展会友)